

国際鯨類施設

建築場所	和歌山県東牟婁郡太地町大字太地字先平見1770-1
建物概要	鉄骨造 地上2階 1879.92㎡
工事概要	新築工事
竣工年月	2023(令和5)年10月
事業者	太地町
設計監理	(有)阪根宏彦計画設計事務所
施工者	(株)浅川組

(環境配慮)

敷地は太平洋を望む吉野熊野国立公園の第2種特別地域に隣接しているため、その自然環境を損なわないよう配慮し、建物高さは周辺の木々より低く設定。土地の形質変更を抑えるため現地盤の傾斜地を利用し、地盤の上段部にある研究室を基準として各部屋を地盤高に合わせて配置。

(木材活用)

天井構造材に紀州材を用いたCLT版を使用、床材や壁材にも木材を利用。図書室の配架台や閲覧用の机やイスの整備を実施。

(防災減災)

エントランスホールを避難所として指定しLPガスを燃料とした発電機を整備や炊き出しセットを配備。

外觀 正面



鳥瞰



スロープ



研修ホール



会議室



図書室



全景 夕景



太地町では、過去、現在、未来鯨に関わり続けることを宣言し、鯨を活かしたまちづくりを推進しています。

施設整備においては、世界の人々にアピールできる施設を目指し、国立公園の自然豊かな環境で鯨捕りの先人が活躍した太平洋を望む場所にその地形を生かした形状とし、雄大な自然に溶け込む世界一の施設にしたいという希望から施設内各所や天井構造体のCLT板にも紀州材を用いました。その木目が自然と調和し鮮やかに映えるように、また、閉鎖的な環境を避けるために、サッシレスLow-E複層ガラスのカーテンウォールを採用しています。

本施設は、日本の鯨類研究の権威である（一財）日本鯨類研究所を指定管理者として運用しています。鯨の研究施設として、また、世界の鯨研究者が研究できる場として活用し、その研究成果を世界に発信していくことで世界一の研究機関を目指し、太地のまちづくり、鯨文化の継承・発展に寄与する大切な役割を期待しています。

担当者より